

## 【岩美郡授業研究会(器械運動中・高)】

参加者：鳥取市4名 八頭郡2名 岩美郡：9名

指導助言：鳥取県教育委員会体育保健課 綱本大介 指導主事



### ○協議の柱

「ねらいを達成するための効果的な指導であったか」

「『する』『見る』『支える』『知る』の多様な関わり方と関連付けた学びになっていたか」

### ○成果

- ・学習のはじめに本時に取り組む技の試技を行い、個々の課題を明確にした。その後、個々の課題を全体で共有することで、学習のめあてにつなげることができた。また、自分の課題に対する解決策を話し合うことで、技のポイントを共通理解し、めあてを意識し活動につなげることができた。
- ・ICT(動画撮影)を活用する場面を設けることで、自分の技の課題を掴むことができた。さらに、視点を与え、学習の始まりと終わりの技を見比べることで、本時のめあてに焦点化したふり返しを行うことができた。また、友だちの技を見て、アドバイスをする機会が増えた。
- ・単元計画では、単元の終わりに発表会を設けることで、毎時間、技の組み立てを意識して学習することができた。発表会では、習得した技を披露し、達成感をもって学習を終えることができた。
- ・技の系統表を、岩美郡独自で作成した。子どもたちが、技の系統を意識して運動したり、技のコツを掲示したりすることで共有することができた。
- ・指導者が、「する・見る・支える・知る」を学習に意図的に取り入れることで、友だちにコツを伝えたり、聞いたりして、子ども同士の関わりが増えた。アンケート結果では、友だちとの関わり方の項目で肯定的な意見が増えた。

### ○課題

- ・高学年で習得させたい技(発展技)を今回の学習で全て取り入れて単元計画を立てたため、一つの技(補助倒立前転)に焦点化した学習展開をすることができなかった。5、6年生で系統立てて取り組む学習計画が必要であった。
- ・さらなる発展技に取り組む児童が多かった。しかし、さらなる発展技に挑戦する児童の中には、発展技が十分に安定して行えていない児童も目立った。本時のめあてを意識させるためにも発展技に重点を置いた学習活動にする必要があった。
- ・「わたしたちの体育」をもっと活用しながら学習を展開する必要があった。活動の中で「わたしたちの体育」を自由に開いたり、できるようになったポイントには□に✓を入れたりして、「わたしたちの体育」の充実した活用の工夫が求められると感じた。
- ・本時のどの場面でどのように評価をするのかを、指導者は意識しながら学習を進めていく必要があった。また、本時のめあてが達成できていない児童に対して指導者はどのように支援していくのか具体的な対策をもち、指導案に明記しておくことが必要だった。